

# 南牧村 橋梁長寿命化修繕計画

令和2年7月

南牧村 振興整備課

## 1. 長寿命化修繕計画の目的

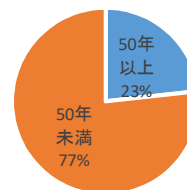
### 1) 背景

南牧村が管理する橋梁は、2020年度現在で155橋架設されている。

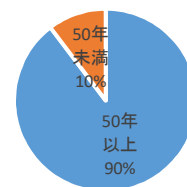
このうち、建設後50年を経過する橋梁は、全体の23%を占めており、20年後の2040年度には、90%程度に増加する。

そこで南牧村では、将来的な財政負担の低減および道路交通の安全性の確保を図るために、橋梁長寿命化修繕計画を策定する。

2020年度  
36橋  
23%



2040年度  
139橋  
90%



### 2) 目的

このような背景から、より計画的な橋梁の維持管理を行い、限られた財源の中で効率的に橋梁を維持していくための取り組みが不可欠となる。

コスト削減のためには、従来の事後保全型から、“損傷が大きくなる前に予防的な対策を行う” 予防保全型へ転換を図り、橋梁の寿命を延ばす必要がある。

そこで南牧村では、将来的な財政負担の低減および道路交通の安全性の確保を図るために、橋梁長寿命化修繕計画を策定する。

## 2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

	一般国道	主要地方道	南牧村道	合計
全管理橋梁数	0	0	155	155
うち計画の対象橋梁数	0	0	155	155
うちこれまでの計画策定橋梁数	0	0	0	0
うち2020年度計画策定橋梁数	0	0	155	155

長寿命化修繕計画の対象：

- ・ 緊急輸送路に位置する橋梁
- ・ 桁下に道路がある橋梁
- ・ 観光地へのアクセス道路に位置する橋梁
- ・ バス路線に位置する橋梁
- ・ 市町村間を結ぶ路線に位置する橋梁
- ・ 国道、主要地方道へのアクセス路線に位置する橋梁
- ・ 近隣に重要な施設がある橋梁

### 3. 橋梁の現状

#### 1) 年度ごとの橋梁架設数

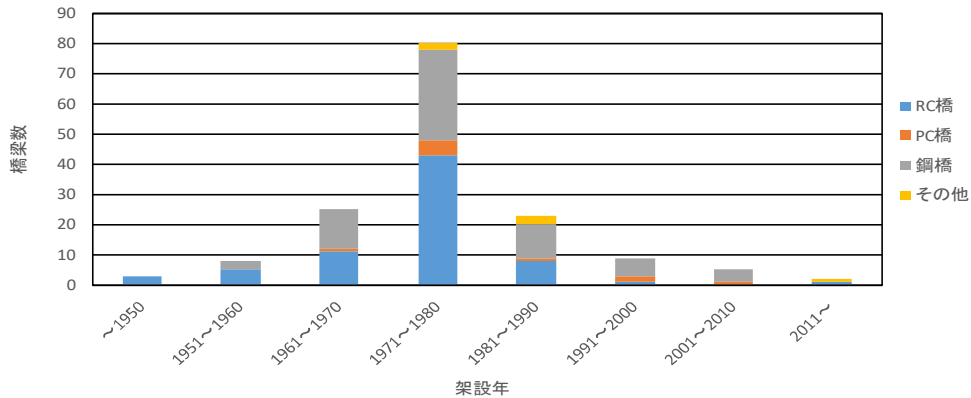
本村が管理している橋梁を10年ごとに分類して集計した結果、1971年～1980年の間に80橋が架設され、全体の52%と突出している事が分かる。

このため修繕等も集中してしまう事が考えられるため、適切な維持管理計画の策定が重要となる。

10年ごとの架設数分類表

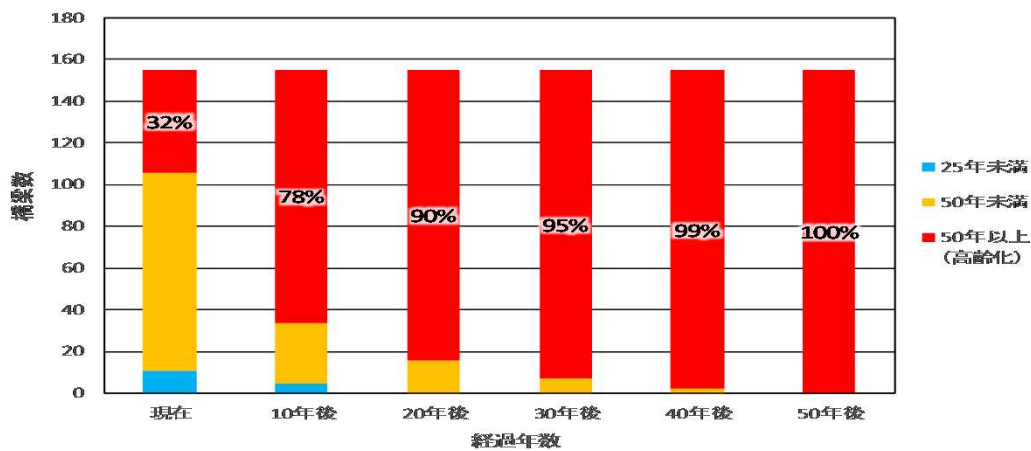
	～1950年	1950年代	1960年代	1970年代	1980年代	1990年代	2000年代	2011年～
RC橋	3	5	11	43	8	1		1
PC橋			1	5	1	2	1	
鋼橋		3	13	30	11	6	4	
その他				2	3			1
計	3	8	25	80	23	9	5	2 (155橋)

年度ごとの橋の架設数(種類)



#### 2) 今後の橋梁高齢化率

	現在	10年後	20年後	30年後	40年後	50年後
50年以上(高齢化)	49	121	139	148	153	155
50年未満	95	29	16	7	2	
25年未満	11		5			
高齢化率	32%	78%	90%	95%	99%	100%



#### 4. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

##### 1) 健全度の把握の基本的な方針

定期点検（概略点検）や日常的な維持管理によって得られた結果に基づき、橋梁の損傷を早期に発見するとともに健全度を把握する。

##### 2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

パトロール車による走行面の変状について点検を行う。

#### 5. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

南牧村が管理する橋梁の中で、架設後30年以上経過した橋梁は全体の約90%を占めているため、近い将来一斉に架替時期を迎えることが予想される。したがって、計画的かつ予防的な修繕対策の実施へと転換を図り、橋梁の寿命を100年間とすることを目標とし、修繕及び架替えに要するコストを縮減する。

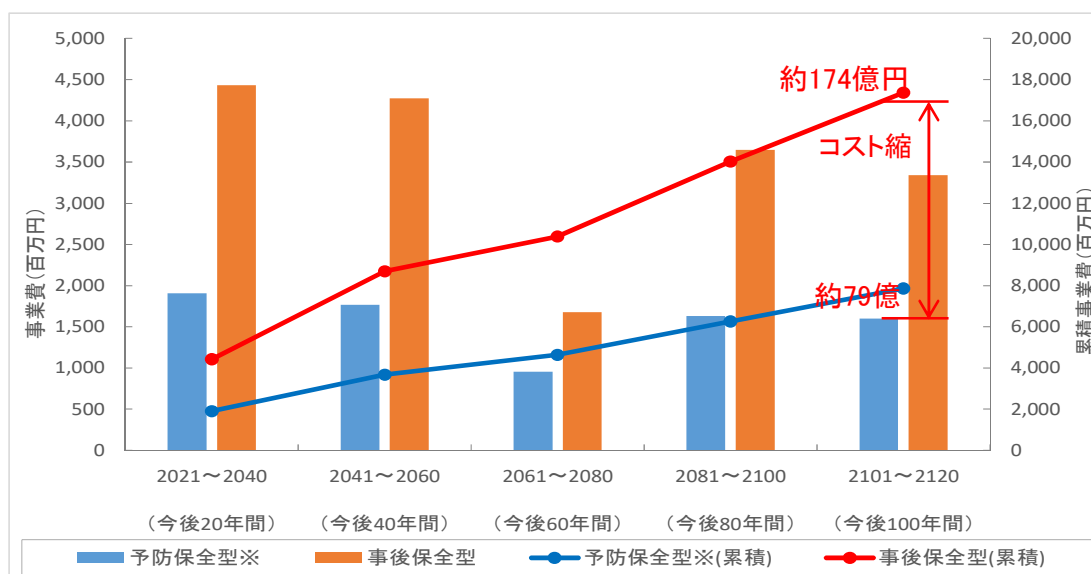
#### 6. 修繕計画の継続的な改善プラン

別紙「PDCAサイクル図」により、計画の持続性と精度の向上を図る。

#### 7. 長寿命化修繕計画による効果

長寿命化修繕計画を策定する155橋について、今後100年間の事業費を比較すると、従来の事後保全型が174億円に対し、長寿命化修繕計画の実施による「予防保全型と事後保全型を比較した」維持管理が79億円となり、コスト縮減効果は95億円となる。

また、損傷に起因する通行制限等が減少し、道路の安全性・信頼性が確保され



---

8. 計画策定担当部署

計画策定担当部署

南牧村 振興整備課

0274-87-2011